

第10分科会「健康」の運営概要

【研究課題】	たくましく生きる心と体を育む健康教育と校長の在り方
【リーダーシップの視点】	1 心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進 2 望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実

I 分科会研究協議の運営計画

リーダーシップの視点1「心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進」

朝食をとらない、自分で起きることができないなど、子どもたちの体の変調が問題視されている。

このような状況にあって、食事、運動、休養、睡眠などの重要性を理解し、自らの基本的な生活習慣を見直すことや、心と体の密接な関連性を理解し、様々な欲求やストレスに対して、状況に合わせて適切に対処できる力を育てることは重要な課題である。さらに、生活習慣病や基本的な感染症に関する知識をもち、個人でできる予防手段を講じることができるなど、自分の体への関心を高め、生涯にわたって健康を維持できる能力を育む必要性が叫ばれている。

心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進のために、校長が果たすべき役割と指導性を究明する。

リーダーシップの視点2「望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実」

メンタルヘルスに関わる課題やアレルギー疾患など子どもの心と体に関する様々な健康問題が生じている。さらに、子どもたちの食生活において朝食をとらない、偏食、孤食といった課題が生じており、生活リズムを身に付けさせることや生活習慣病を予防するために、正しい食に関する知識と望ましい食習慣を育むことが大切である。

食育の指導に当たって、養護教諭や栄養教諭の主体的な関わりとともに、全教職員それぞれの役割を明確にし、相互の効果的な連携と取組の体制確立のために、校長が果たすべき役割と指導性を究明する。

II これまでの成果と課題～十勝大会から～

【成果】

リーダーシップの視点1「心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進」

- ①体育授業の改善を学校全体の取組とするために、学校経営方針に取り上げ、校長のビジョンを明らかにし、活用すること。
- ②健康教育を推進するために、学校や児童が抱えている課題や状況を全体で共有し、PDCAが機能する教育課程を編成し、実施すること。
- ③学校全体の授業力の向上を図るために、体育専科教員の活用は有効であり、TTによる指導など、児童の興味・関心が高まるとともに、教職員の意識改革につながることを。

リーダーシップの視点2「望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実」

- ①児童一人一人が自ら健康の保持増進ができるようにするため、教育課程の編成、全体計画の作成など、学校の教育活動全体を通して育成すること。
- ②家庭・地域・学校がそれぞれの教育機能を発揮するために、主体性と独自性を認めながら、相互に連携・協力・補完すること。
- ③食育に関わる授業や食に対する児童の意欲を高めるため、栄養教諭の役割が重要であり、配置校や近隣の学校における栄養教諭による指導の充実に努めること。

【課題】

リーダーシップの視点1「心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進」

- ①健康教育の全体計画に示されている各教科・領域等の目標や内容が、各学年・学級レベルにまで反映されること。
- ②具体的な取組としてその方策が学校体制の中に位置付けられていること。
- ③教職員一人一人の意識改革と校長・教頭・教務主任や各主任が組織として機能していること。

リーダーシップの視点２「望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実」

- ①食育に関する指導の充実を図るために、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間などとの連携を図った教育課程の編成が必要であること。
- ②実際の指導に当たっては、栄養教諭の存在が大きいが、全ての学校に配置されていないため、養護教諭や関係機関との連携、外部人材の活用などが必要であること。
- ③近年増加し深刻化している食物アレルギー対応については、命に関わる事例でもあるので、今後の研修や校内体制の整備が必要であること。

Ⅲ 研究発表の概要

○研究発表者 釧路市地区 釧路市立湖畔小学校長 塩 住 啓 介

○発表題 健やかな心身を育成する健康教育の推進と校長の指導性

○発表の要旨

- ①心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進
 - ・望ましい生活習慣の育成と定着
 - ・望ましい生活習慣の育成に関わる校長の指導性
 - ・健康・体力向上に関わる３か年の成果と課題
- ②望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実
 - ・食物アレルギーをもつ児童への対応
 - ・食物アレルギー対応に関わる校長の指導性
 - ・食育教育に関わる３か年の成果と課題

Ⅳ 協議の流れ

- 1 開会の言葉
- 2 担当者紹介・司会者挨拶（１０分）
- 3 グループ内自己紹介（１０分）
- 4 趣旨説明（１０分）
- 5 研究発表（２５分）
- 6 質疑応答（５分）
- 7 グループ討議①（４０分）
 - 「課題の明確化」（柱１・柱２）
 - ・グループ協議→全体交流
- 8 休憩（１５分）
- 9 グループ討議②（５０分）
 - 「課題の改善方策及び校長の具体の働きかけ」（柱１・柱２）
- 10 全体交流（３０分）
- 11 まとめと今後の課題（１０分）
- 12 閉会の言葉・連絡（５分）

※なお、時間については予定であり、変更となる場合があります。

Ⅴ その他

第１０分科会「健康」では、視点ごとに討議の柱を立てて、今日的な課題の解決方策を探ることとしています。

つきましては、Ⅳ協議の流れを踏まえ分科会を進めることとしておりますので、追加資料をご一読いただくとともに、事前の検討課題に対して、ご自身の考えや方策をおまとめいただき、分科会にご参加いただきますようお願いします。